

第 154 回 第一次世界大戦前夜

1 ビスマルク体制の崩壊

- ・ 19 世紀末、ヨーロッパでは、ドイツの宰相（ ）の巧みな外交政策によって、（ ）が孤立させられていた。
→（ ）がドイツ皇帝となると、この状況が大きく変化した。

<ビスマルク体制>

- ・ 若き新皇帝は「 」を展開し、強引な海外進出をはかろうとした。
→1890 年、皇帝との対立により（ ）した。
→1890 年、（ ）をかかげて、（ ）への進出をはかり、ロシアとの（ ）更新を拒否した。
→1891～94 年、ロシアはフランスとの間に（ ）を結んだ。
※これによりビスマルク体制は崩壊した。
- ・ またアジア方面では、ロシアが南下政策を行っていた。
→1902 年、ロシアに対して、イギリスと日本は（ ）を結んだ。



宰相ビスマルク

VS.



皇帝ヴィルヘルム2世

第 140 回でもこのふたりの対立が出てきた。国内政策では社会主義者鎮圧法で対立し、外交政策でも対立した。



シベリア鉄道建設開始

シベリア鉄道の建設は、1891 年の露仏同盟後に、フランスからの資金援助でようやく開始された。建設を推進したのはウイッテである。

2 ドイツとイギリスの対立

- ・ ドイツは、（ ）の建設をすすめて、（ ）・イスタンブル・（ ）を結ぶ政策をとるようになった。
※この政策を（ ）という。

- ・ 一方イギリスは（ ）を進めていたので、ドイツとの対立が激化した。
→両国は海軍の大拡張をはかり、建艦競争を繰り広げた。

- ・ 1904 年、イギリスは、フランスとの間に（ ）を結んだ。
→さらにロシアが（ ）に敗れてアジア方面から撤退し、インドへの脅威が少なくなったこともあり、1907 年（ ）を結んだ。
→これにより（ ）が成立した。



イギリスの戦艦ドレッドノート

イギリスとドイツは、海軍力増強のため、新しい戦艦を競争で建造していた(建艦競争)。ドレッドノートは、「弩級」という言葉の語源となった。



日露戦争の風刺画



『坂の上の雲』より日本海海戦

風刺画は、日露戦争の背景がうまく表現されている。勝敗の行方を左右したのは、いまや伝説となった日本海海戦であった。

< ドイツ VS イギリス >

- ・ これによりヨーロッパには、ドイツを中心とする（ ）と、イギリスを中心とする（ ）の対立状態が生まれた。
※この国際関係が、第一次世界大戦の基本構図である。

< ビスマルク体制の崩壊 >